

大八洲開拓略年表

年号	大八洲開拓関係	政治・社会・農業
昭五	東北地方冷害	農業恐慌(米価・繭価暴落) 満州事変(柳条湖事件)
七	武装移民団に佐藤孝治他加わる	満州国建国宣言・満州移民計画決定、送出 救農臨時議会・農山漁村経済更生計画始まる
六	東北地方冷害	
九	東北地方大冷害・土竜山事件おこる	
十	東北地方食糧難深刻・安藤まさ開拓花嫁で渡満	
十一	佐藤スツ・花輪ふく花嫁で渡満・石田民夫戦死	二十カ年百万戸移民送出の国策決定・経済更生特別助成で分村移民に
十二	大八洲開拓創設・山形県からの入植者募集	日中戦争開始・義勇軍建白書・移民大計画決定
十三	今井ヤイ子・斉藤いせよ・長久保好美渡満	国家総動員法公布・義勇軍募集、訓練所開設
十四	庄司きい・仲野みよ子・鈴木はな・遠藤きよの渡満	拓務省花嫁募集・女子農学校で花嫁教育実施
十五	味増、漬物軍納開始	国民徴用令公布・移民を開拓団、拓士に改称
十六	吉田せん渡満	義勇軍訓練生の寮母百一人渡満
十七	開拓団員召集され出す	米の供出割当始まる・女子拓務訓練所開設
十八		太平洋戦争開始
十九		拓務省↓大東亜省に
		ガダルカナル島撤退・イタリア無条件降伏
		サイパン陥落・本土決戦体制・供出部落割当

年号	大八洲開拓関係	政治・社会・農業
二十	ソ連侵攻で逃避、方正・新京・奉天で越冬生活	ドイツ無条件降伏・広島、長崎原爆投下・敗戦
二十一	引き揚げ・茨城県菅生沼に入植	天皇、神格化否定宣言・供米強権発動・第一、二次農地改革施行
二十二	キャサリン台風で全耕地水没作物全滅 第一回合同結婚式(五組)	日本国憲法・改正民法施行・GHQ供米に強権発動指令
二十三	大八洲開拓農協設立・安藤、近田戦病死者葬儀 集中豪雨、アイオン台風の二回作物全滅	米の配給二合七勺に
二十四	素住台開墾開始・集中豪雨、キテイ台風作物全滅	世界農業センサス実施・朝鮮戦争おこる
二十五	大原開墾開始・集中豪雨で耕地水没、人家浸水	無着成基「山びこ学校」・DDT・24D出る
二十六	集中豪雨で耕地冠水、大型トラクター払い受け	開拓融資保証法・農業機械化促進法施行
二十八	連日降雨、台風で耕地冠水、作物全滅	電気洗濯機急速に普及・酪農振興法
二十九	借入金返済不能状態で農協経営立て直しを協議	神武景気・電気釜普及始まる
三十	個別経営へ移行・旧越流堤竣工・河川敷占有申請	「もはや戦後ではない」
三十一	農協立て直しのための国の指導監査	インスタント・ラーメン発売
三十三	台風二二号越流浸水作物全滅	テレビ普及・国民年金法公布・岩戸景気
三十四	台風七号越流堤決壊・耕地水没・人家全半壊	「農業の基本問題と基本対策」を答申
三十五	流作の宅地かさ上げ工事・越流堤工事竣工	所得倍増期に入る
三十七	流作簡易水道工事	東海道新幹線開通・東京オリンピック開催
三十九	大原、素住台にスプリンクラー	酪農近代化計画制度創設
四十	婦人ホーム竣工・集乳所増設策(三集落)	畜産振興審議会設置・輸入肉畜産事業団で
四十一	大原、素住台、流作集乳所完成	

年号	大八洲開拓関係	政治・社会・農業
四十二	木野崎の耕地三十六ヘクタール買収、一〇ヘクタール借地開田する	稲作有史以来の豊作、水陸稲一四四五万トン
四十三	県「朝日農業賞」受賞	都市計画法施行・田植機など実験的導入
四十四	都市計画法により大原の一部と素住台市街化区域に・ライスセンター建設・コンバイン導入・肥育素牛哺育センター建設	稲作転換対策の実施について(十アール当り二万円転換奨励金)
四十五	素住台、住宅公団建設用地で他へ移転決定	四十四年度一人当り米の消費量九六・九キロ
四十六	素住台、代替地へ移転開始	四十五年度米生産調整対策実施要項
四十八	素住台、二十一戸移転完了・稲転事業でトラクターなど共同利用の大型機械導入	グレイプフルーツなど二〇品目輸入自由化
五十	緊急粗飼料増産事業	農用地利用増進事業創設
五十一	同右	水田総合利用対策実施要綱二二万五千ha
五十二	肉用牛肥育施設近代化	同右三九万一千ha・新農業構造改善対策
五十三	転作促進・高能率推進対策	水田利用再編第二期対策
五十六	佐藤孝治組合長逝去	衆・参農林水産委員会「農産物輸入自由化反対決議」
五十七	台風一五号耕地浸水	消費税導入を柱とする税制改革六法案可決
六十三	山崎農業賞受賞 台風一〇・一八号耕地浸水収穫皆無・人家浸水 訪中慰霊をおこなう	日米・牛肉オレンジ交渉決着